

令和6年 上半期
火災・救急統計

松山市消防局

目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別の件数	4
8	地区別件数の推移	5
9	住宅用火災警報器の奏功事例	6
第2	救急の概況	7
1	救急出動件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災

第1 火災の概況

令和6年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数52件、損害額5,452万3千円、死者0人、負傷者12人となっています。

1 火災件数

令和6年上半期（1月～6月）の火災件数は52件で、前年同期（63件）と比べて11件減少しています。

（▲は減少）

		令和6年	令和5年	前年同期比
火災件数		52	63	▲11
種別	建物火災 (住宅火災)	38 (25)	39 (23)	▲1 (2)
	林野火災	0	3	▲3
	車両火災	3	4	▲1
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	11	17	▲6

※その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

2 火災による損害

令和6年上半期（1月～6月）の火災による損害の状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

		令和6年	令和5年	前年同期比
焼損棟数	合計	50	49	1
	全焼	6	3	3
	半焼	3	0	3
	部分焼	10	1	9
	ぼや	31	45	▲14
り災世帯数		39	31	8
建物焼損床面積（㎡）		797	176	621
建物焼損表面積（㎡）		87	3	84
林野焼損面積（a）		0	13	▲13
損害額（千円）		54,523	13,295	41,228

3 死傷者数

令和6年上半期（1月～6月）の火災による死者は0人で、前年同期（4人）と比べて4人減少しています。また、火災による負傷者は12人で、前年同期（8人）と比べて4人増加しています。

（▲は減少）

	令和6年	令和5年	前年同期比
死者	0	4	▲4
負傷者	12	8	4

4 出火原因別の火災発生状況

令和6年上半期(1月～6月)の火災52件を出火原因別にみると、「こんろ」と「電気機器」が6件(11.5%)、「たばこ」が5件(9.6%)となっています。

(▲は減少)

	令和6年	令和5年	前年同期比
こ ん ろ	6	9	▲ 3
電 気 機 器	6	5	1
た ば こ	5	3	2
た き 火	4	11	▲ 7
電 灯 ・ 電 話 等 の 配 線	3	3	0
放 火	2	3	▲ 1
ス ト ー ブ	2	1	1
取 灰	2	0	2
放 火 の 疑 い	2	0	2
配 線 器 具	1	3	▲ 2
灯 火	1	1	0
排 気 管	1	1	0
電 気 装 置	1	1	0
火 あ そ び	1	0	1
焼 却 炉	0	2	▲ 2
マ ッ チ ・ ラ イ タ ー	0	2	▲ 2
内 燃 機 関	0	1	▲ 1
火 入 れ	0	1	▲ 1
そ の 他	11	11	0
不 明 ・ 調 査 中	4	5	▲ 1
合 計	52	63	▲ 11

5 損害額

令和6年上半期（1月～6月）の火災による損害額は5,452万3千円で、前年同期（1,329万5千円）と比べて4,122万8千円増加しています。

（▲は減少）

	令和6年 (千円)	令和5年 (千円)	前年同期比 (千円)
損 害 額	54,523	13,295	41,228
建 物	54,183	10,990	43,193
林 野	0	0	0
車 両	249	1,726	▲ 1,477
船 舶	0	0	0
航 空 機	0	0	0
そ の 他	91	579	▲ 488
爆 発	0	0	0

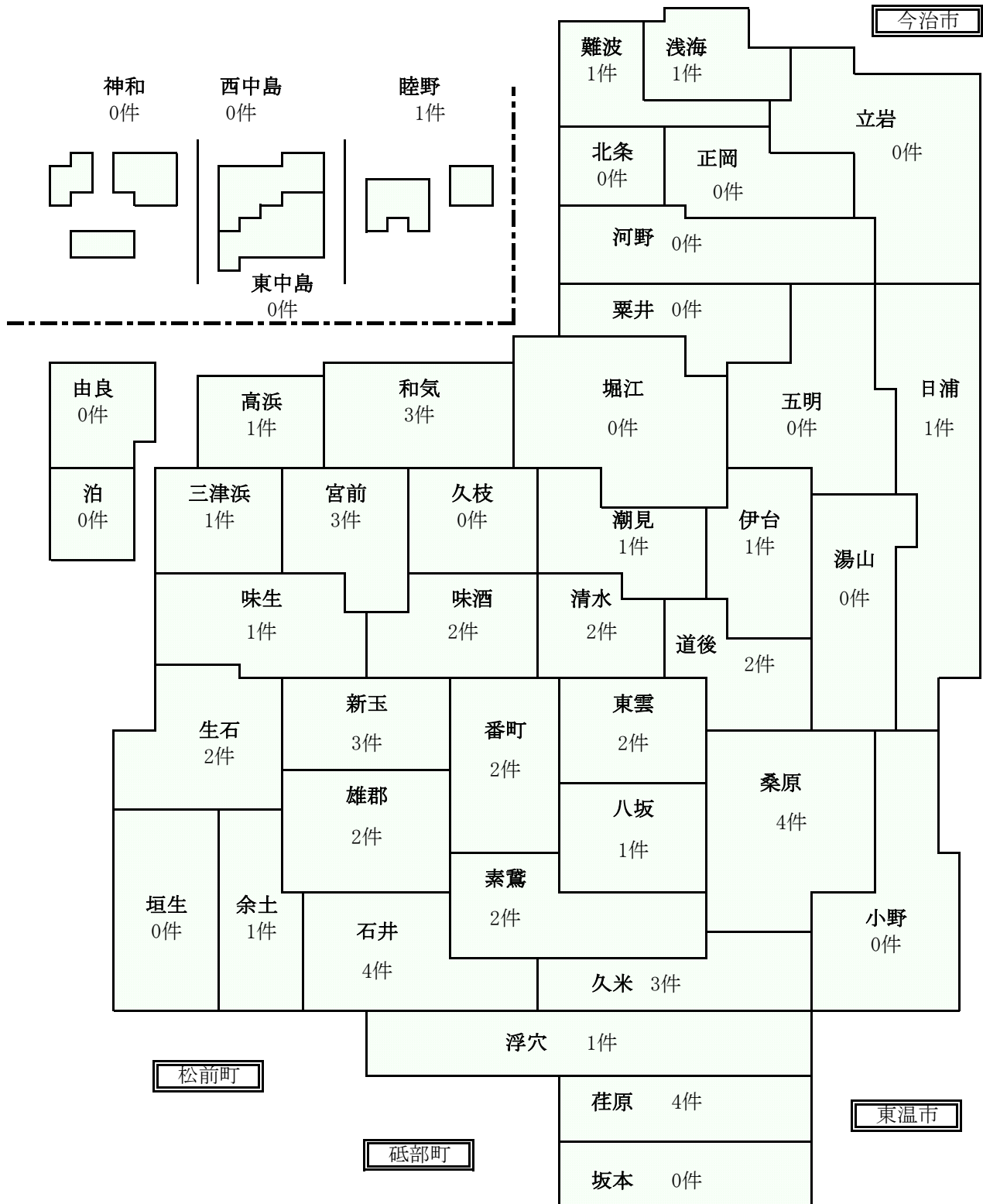
6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）の火災状況は次表のとおりです。

	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	平均
火災件数 (件)	52	63	76	60	49	60.0
焼損棟数 (棟)	50	49	82	62	61	60.8
死者 (人)	0	4	5	2	6	3.4
負傷者 (人)	12	8	14	28	10	14.4
り災世帯数 (世帯)	39	31	63	47	45	45.0
り災人員 (人)	80	73	128	87	98	93.2
損害額 (千円)	54,523	13,295	92,282	117,739	102,808	76,129

7 地区別の件数

火災件数を地区別にみると、桑原、石井、荏原が4件で最も多く、次いで新玉、宮前、和気、久米が3件となっています。



8 地区別件数の推移

(各年上半期)

	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年
番町	2	3	6	1	1
東雲	2	4	3	3	2
八坂	1	2	0	2	1
素鷺	2	0	1	3	3
雄郡	2	2	3	3	4
新玉	3	1	1	1	1
味酒	2	1	1	1	1
清水	2	5	7	0	3
桑原	4	2	1	0	2
道後	2	3	3	1	2
味生	1	6	1	2	2
生石	2	5	4	2	0
垣生	0	0	1	0	1
宮前	3	3	2	0	1
三津浜	1	0	0	0	1
高浜	1	1	1	3	0
久枝	0	3	1	2	1
潮見	1	2	2	6	2
和気	3	0	2	3	1
堀江	0	1	2	2	0
余土	1	3	2	3	2
由良	0	0	0	1	0
泊	0	0	0	1	0
久米	3	2	3	2	1
湯山	0	2	0	0	2
日浦	1	1	0	1	0
伊台	1	0	1	2	0
五明	0	0	1	0	2
小野	0	3	3	4	1
浮穴	1	1	1	1	2
石井	4	3	8	4	5
荏原	4	1	2	1	2
坂本	0	0	1	0	0
浅海	1	0	1	2	1
立岩	0	0	1	0	0
難波	1	0	1	1	1
正岡	0	0	1	0	0
北条	0	0	1	0	0
河野	0	2	3	0	0
栗井	0	1	2	2	1
睦野	1	0	0	0	0
東中島	0	0	0	0	0
西中島	0	0	1	0	0
神和	0	0	1	0	0
合計	52	63	76	60	49

※松山市基準地区（44地区）

9 住宅用火災警報器の奏功事例（令和6年上半期）

【事例1】近隣住民が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例

近隣住民が住宅から警報音が鳴っていることに気づき、119番通報を行った。消防隊が駆けつけ、警報音が鳴っている住宅を確認したところ、ガスこんろの火にかかったままの鍋を発見し、ガスこんろの火を止め、火災を未然に防ぐことができた。

【事例2】住人が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例①

住人が警報音が鳴っていることに気づき、台所を確認したところ、電子レンジから煙が出ているのを発見。電子レンジを止めたことで煙が収まり、火災を未然に防ぐことができた。

電子レンジの加熱時間が長かったため、庫内の食べ物が焦げていた。

【事例3】住人が警報音に気づき、火災を未然に防いだ事例②

住人が警報音が鳴っていることに気づき、台所を確認したところ、ガスこんろの火にかけたままの鍋から煙が出ているのを発見。ガスこんろの火を止め、火災を未然に防ぐことができた。

住人は調理中であることを忘れていた。

【事例4】火元住人が警報音に気づき、初期消火に成功した事例①

火元住人が警報音が鳴っていることに気づき、台所を確認したところ、ガスこんろの火が周囲の収容物に燃え移っているのを発見。速やかに初期消火を行い、被害を最小限に抑えることができた。

【事例5】火元住人が警報音に気づき、初期消火に成功した事例②

火元住人が警報音が鳴っていることに気づき、居室を確認したところ、仏壇のローソクが倒れ、周囲の紙類に燃え移っているのを発見。速やかに初期消火を行い、被害を最小限に抑えることができた。

- 住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。
- 住宅用火災警報器は、古くなると電池切れや、故障する可能性があります。日頃から正常に作動するか確認し、10年を目安に交換してください。
- 作動確認や設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご確認ください。
- 初期消火には粉末消火器が有効です。日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

救 急

第2 救急の概況

松山市の令和6年上半期（1～6月）の救急出動件数は14,685件、搬送人員は13,395人で、前年同期と比較し出動件数・搬送人員ともに増加しています。

これは、一日平均80.7件、約17分51秒に1回の割合で救急車が出動し、市民約37人に1人の割合で搬送されたことになります。

1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで、出動件数・搬送人員とも全体の約96～98%を占めています。

（▲は減少）

区分	単位	令和6年	構成比(%)	令和5年	構成比(%)	増減
出動件数	件	14,685	100.0	14,072	100.0	613
内訳	火災	41	0.3	40	0.3	1
	自然	2	0.0	0	0.0	2
	水難	3	0.0	7	0.0	▲4
	交通	1,026	7.0	1,070	7.6	▲44
	労災	81	0.6	73	0.5	8
	運動	89	0.6	90	0.6	▲1
	一般	2,123	14.5	1,980	14.1	143
	加害	36	0.2	60	0.4	▲24
	自損	132	0.9	128	0.9	4
	急病	9,172	62.5	8,741	62.1	431
	転院	1,829	12.5	1,754	12.5	75
	その他	151	1.0	129	0.9	22
搬送件数	件	13,327	—	12,809	—	518
搬送人員	人	13,395	100.0	12,874	100.0	521
内訳	火災	8	0.1	6	0.0	2
	自然	2	0.0	0	0.0	2
	水難	1	0.0	3	0.0	▲2
	交通	942	7.0	977	7.6	▲35
	労災	79	0.6	72	0.6	7
	運動	89	0.7	92	0.7	▲3
	一般	1,966	14.7	1,863	14.5	103
	加害	30	0.2	47	0.4	▲17
	自損	94	0.7	93	0.7	1
	急病	8,370	62.5	7,976	62.0	394
	転院	1,814	13.5	1,745	13.6	69
	その他	0	0.0	0	0.0	0
出動平均(1日)	件	80.7		77.7		
出動間隔		17分51秒		18分31秒		

（注1） 出動平均については、前年比1日あたり3件増加しています。

（注2） 出動間隔については、前年比40秒短くなっています。

（注3） 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関12,320人(92.0%)、その他の医療機関1,075人(8.0%)、その他の場所0人となっております。

告示の別等 事故種別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	7,751	905	1,892	1,772	12,320
その他の医療機関	619	37	74	345	1,075
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	8,370	942	1,966	2,117	13,395

(注) 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関。

3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡162人(1.2%)、重症510人(3.8%)、中等症5,096人(38.0%)、軽症7,627人(56.9%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	0	0	0	3	0	0	6	0	6	145	2	162
重症	2	0	0	13	1	2	48	0	8	286	150	510
中等症	3	1	0	111	27	22	613	0	20	2,664	1,635	5,096
軽症	3	1	1	815	51	65	1,299	30	60	5,275	27	7,627
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	2	1	942	79	89	1,966	30	94	8,370	1,814	13,395

(傷病程度)

- 死亡 初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
- 軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの
- その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

4 応急処置実施状況

救急救命士等が行った救命処置は、143件（前年160件）となっています。

事故種別 応急処置	事故種別 応急処置対象人数	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
		8,288	942	1,961	2,107	13,298
止血		24	14	79	13	130
被覆		24	195	352	43	614
固定		3	37	47	10	97
保温		373	25	78	92	568
酸素吸入		1,423	12	71	566	2,072
人工呼吸のみ実施		9	0	0	1	10
胸骨圧迫のみ実施		6	0	0	0	6
● うち自動心臓マッサージ器使用		3	0	0	0	3
心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）		155	3	9	10	177
● うち自動心臓マッサージ器使用		35	0	1	1	37
気道確保		110	2	12	4	128
● うち経鼻エアウェイ		0	0	0	0	0
● うち喉頭鏡・鉗子等		18	0	0	3	21
●◎ うちラリングアルマスク等		40	0	0	1	41
●◎ 気管挿管		5	0	0	0	5
● 在宅療法継続		45	0	4	2	51
● ショックパンツ		0	0	0	0	0
●◎ 除細動		15	0	0	3	18
●◎ 静脈路確保		22	1	1	1	25
うち心肺停止前（ブドウ糖含む）		2	1	1	0	4
うち心肺停止後		20	0	0	1	21
●◎ 薬剤投与		6	0	0	0	6
アドレナリン投与		3	0	0	0	3
エピペン投与		1	0	0	0	1
ブドウ糖投与		2	0	0	0	2
●◎ 血糖測定		48	0	0	0	48
● 血圧測定		7,798	927	1,869	1,947	12,541
● 聴診器		268	9	24	20	321
● 血中酸素飽和度の測定		8,091	934	1,934	2,047	13,006
● 心電図		1,935	20	57	278	2,290
その他		2,263	209	523	560	3,555
合計		22,618	2,388	5,060	5,597	35,663
● 拡大された応急処置等		18,329	1,891	3,890	4,303	28,413
◎ 特定行為等		136	1	1	5	143

（注）

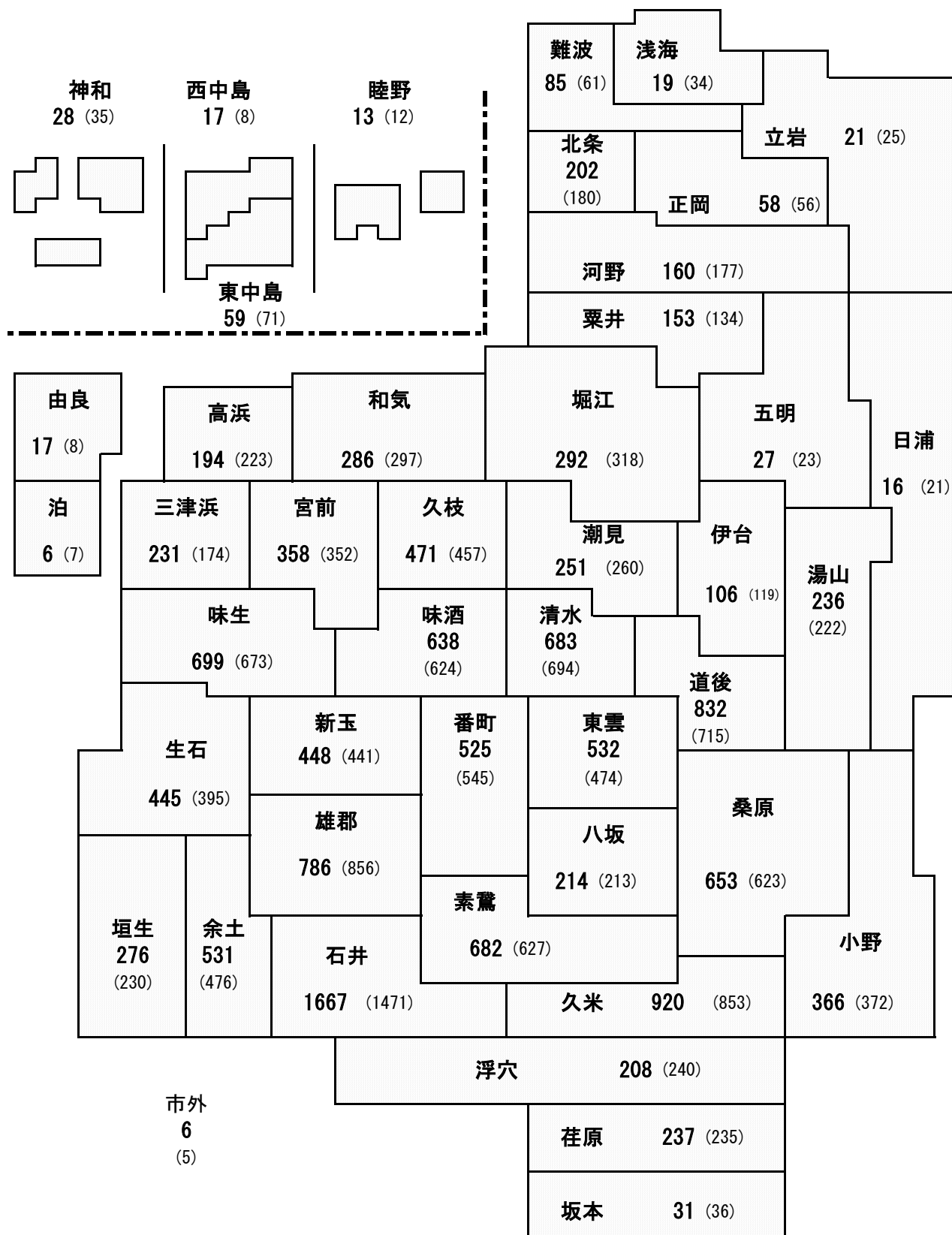
「●」とは、拡大された応急処置の項目

「◎」とは、救急救命士が行う特定行為の項目

5 地区別救急発生状況

出動件数 1 4, 6 8 5 件 (前年 1 4, 0 7 2)

() 内は前年同期の発生状況



令和6年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは
松山市消防局予防課

TEL: (089) 926-9247 FAX: (089) 926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは
松山市消防局救急課

TEL: (089) 926-9227 FAX: (089) 926-9187

E-mail: sbkyukyu@city.matsuyama.ehime.jp